

「第5回 富士山地区分科会」

富士山の安全、世界遺産の保護、 そして観光のこれから

■日時／2020年2月18日 ■会場／静岡県富士山世界遺産センター



サンフロント21懇話会は2020年2月18日に第5回富士山地区分科会を開催。世界文化遺産に登録されて以降、登山者の急増にともなう安全面・環境保護面の諸課題や、観光振興の在り方について、多面的な討論を行った。

基調講演では八合目富士山衛生センターの夏季常駐医師・大城和恵氏に富士登山者の現状と課題についてうかがい、パネルディスカッションでは文化政策、民間ガイド、観光交流ビューローの各専門家と大城氏が、世界文化遺産富士山のこれからの生かし方について議論した。

主催者代表挨拶



静岡新聞社 常務取締役
谷川 治

サンフロン21懇話会第5回富士山地区分科会にご来場いただき、ありがとうございます。今年の冬は総じて暖かく、雪不足で悩んでいる地域もあると聞いていますが、今はなんといっても世界各地に広がっている新型コロナウイルス。感染ルートがつかめないケースもあるということで不安は尽きません。完全に終息するまで1～2年必要だという話もあり、間近に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックも心配になってきます。とりあえずは「冷静に恐れろ」ということでしょうか。

さて富士山が世界文化遺産に登録されて6年半になり、このセンターも開設されて3年たちます。私はオープニングの時に来まして、逆さ富士をイメージしたデザインが非常に話題になりました。今日は休館日で内部の見学はできませんが、富士山にまつわる様々な資料が展示されています。

富士山には世界文化遺産として後世に伝える上での課題もあります。本日はそれら課題について講師の大城先生はじめ各分野のパネリストの方々に語っていただこうと思います。

サンフロン21懇話会は今年26年目を迎えました。四半世紀余にわたってさまざまな支援や提言を行ってまいりましたが、こうした活動を継続できるのは会員の方のご協力とご支援のおかげだと思っております。この場をお借りして改めて感謝を申し上げますとともに、今後ともご協力ご支援を賜りますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

懇話会副代表幹事挨拶

サンフロン21懇話会の第5回富士山地区分科会の開催に際し、多数の方にご参加いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの問題は中国の影響力をまざまざと思い知らされた感があります。停滞気味の世界経済に更なる下ぶれリスクとならないよう、また5カ月後に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックに影響が及ばないよう祈るばかりです。開催される自転車競技は県東部にとって今年最大のイベントとなりますので、地域を挙げて歓迎できればと思っております。

最近、トヨタ自動車が裾野市にコネクティッド・シティ構想を立ち上げ、未来に向けた壮大な実証実験が始まろうとしています。自動車の概念を超え新しい生活や生き方の研究が進められるということで世界から注目され、県東部の振興にも大きな期待が寄せられるものと考えております。当懇話会でも積極的に支援を行っていきたくと思っております。

今回の富士山地区分科会は富士山の魅力を再確認しながら、世界遺産として安全な登山、観光での新展開など各方面から提言をいただき、後世につなげるために考えてまいりたいと思っております。皆様方の一層のご支援ご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



静岡ガス株式会社取締役特別顧問
岩崎 清悟

基調講演

八合目富士山衛生センター 常駐医師から見た富士山

講師

八合目富士山衛生センター夏季常駐医師
大城和恵氏



日本唯一、公設の山の診療所

私は2015年から5年間、富士宮口八合目の富士山衛生センターに入らせていただきました。富士山衛生センターは標高3,250メートルにあり、行政の自治体が運営している日本唯一の診療所です。一般人を誘致する観光地であるという責任のもと、しっかり取り組んでおられる富士宮市さんには頭が下がる思いです。

医療に携わる者にとって、ふだん病院にいたら高山病の患者を診ることはまずありません。下山したら治ってしまう病気だからです。その意味でここは医療者の育成にとっても役に立っているわけで大変感謝しております。

2018年の開山中、私が診た152人のうち、日本人は124名でした。20～30代が多く、高齢者はそんなにいません。残りの外国人も若い世代が多いのですが、そもそも足腰が丈夫で自分でコミュニケーションが取れる人しか来日しませんし、元気な人しか富士山には来ません。外国人がたくさん来て大変かといえば、それほどでもないという感じです。

最近の傾向として気になるのは、持病が悪化した状態で来る日本人が多いということ。センターでも高山病だけでなく、高血圧や認知症など一般病院と同じような治療をするケースが増えています。

受診はほぼ24時間対応します。高山病は寝て起きた後に具合が悪くなる人が多いので、ご来光を見るため夜中に起きて具合が悪くなる、あるいは朝起きて具合が悪くなる、山頂まで行って戻ってきて具合が悪くなるというように診療時間はま

ちまちです。高山病にはこういう傾向があることを、ここでの診療で初めて理解しました。

高山病の種類

具体的な疾患を見てみましょう。一番多かったのは軽度の急性高山病。次いで頭痛や吐き気やふらつきといった高山病の中等症。ほか、高山病の一步手前の頭痛だけの人、汗をかきすぎて足がけいれんする脱水症、ケガ、低体温症などです。高山病、脱水症、ケガ、低体温症が富士山での4大疾患といえるでしょう。

高山病は標高に身体が慣れないことで起きる病気です。富士山のような3,700メートル級の山ですと3日ぐらいかけて登れば高山病は回避できるのですが、今は半日で登って残り半日で帰ってくるという人が多い。若い人は体力があるので軽い高山病なら登ってしまいます。ですから登頂率はけっこう高いんですね。

重症の高山病には脳浮腫と肺水腫があります。脳浮腫にかかるととても登れませんのですぐに下山してもらいます。山に2泊以上滞在するとなりにやすいので、富士登山者ではほとんどなく、北アルプスや南アルプスなど1週間ぐら縦走するような山で見られます。

レアケースながら富士山頂で脳浮腫になってしまった30代の女性がいきました。山頂からなんとか運んでもらったのですが、脱力した成人を運ぶというのは本当に大変で、大の大人が6人がかりでやっとです。たまたま山頂に看護師さんがいて「呼吸が止まりかけていますが動かしても大丈夫

でしょうか」と聞くので「運ばないとそのまま死んじゃうでしょう！」と答えて運んでもらいました。運ぶ人たちも途中で息が止まったらどうしようと気が気じゃなかったと思います。本当にお世話になりました。

衛生センターには精密な検査機器はないので正確な診断はつかず、脳浮腫、低血糖、低体温症、脱水症と可能性のある4つぐらいの診断すべてに対処します。その女性は少し意識が戻り、真夜中にブルドーザーで搬送することになりました。危険を伴う夜間に搬送を依頼することは滅多にないのですが、彼女は麓の病院で一命を取り留めることができました。

その後の経過は運ばれた病院から報告を受けます。衛生センターは山好きの同好会が運営しているわけではなく公の診療所ですから、患者さんを他の病院に移すときも紹介状をきちんと出せるよう富士宮市にお願いしました。それで患者さんがどうなったのかきちんと報告してもらえます。山の中の衛生センターが正規診療所として機能するというのはとても大きなことで、後方の病院との連携も進んできたと思います。

要注意！高齢者のけが

高山病の原因のほぼ8割は脱水ですので、しっかり水分補給すれば予防できます。高山病にかかっても下山すれば治りますので、とにかく水をきちんと飲んでくださいと指導します。

現在、富士宮市からは経口補水液を提供していただいています。あるとき、衛生センターに行けば経口補水液がタダでもらえるという噂を聞きつけた大阪のおばちゃんが次から次にやって来て、いちいち説明するのも大変なのでまとまって来てくださいとお願したら20人の集団でやってきました(笑)。

その後、高校の卒業記念登山だという若者グループが、具合の悪い仲間がいると言って来ました。「原因は脱水だよ」と全員に経口補水液を飲ませました。彼らは大阪のおばちゃんたちとは大違いで、1本の補水液に一人1,000円ずつきちんと置いていきました。

そのほか、足首の捻挫や骨折といった外傷は多

いですね。登山道は火山礫で滑りやすく、低酸素状態で集中力が低下するんです。

骨折したある男性に「早く家に連絡してくださいね」と言ったら、なぜか電話をしたがらない。どうやら奥さんに富士山に登ること自体反対されていたようで、けがをしたなんて言ったら輪を掛けて怒られると。それでもどうしても登りたい魅力がある山なんですね。この人もブルドーザーで下へ運んでもらいました。

捻挫をした20代のスペイン人女性をギプスで固定してあげたときは、「救助隊を呼びますから」と言ったら、彼女は「なぜ命にかかわるようなけがでもないのに呼ぶの」と断り、自力で下山しました。心配だったので下から上がってくる人に様子を聞いたら「ちゃんと下りていったよ」と報告があったのでホッとしました。こういう連携が取れるのもありがたいですね。

怖いのは高齢者のけがです。夜7時頃、山頂で転倒していったん意識を失った後、意識が戻ったという75歳の男性が来ました。夜の搬送はリスクが高いため、多くの場合は朝まで待機してもらいますが、この人は血圧が200以上あり、朝まで待っていたら危ないと判断し、救護隊に連絡しました。転倒の傷を応急処置し、点滴と酸素マスクを付けた状態でブルドーザーで下ろしてもらい、結果的にくも膜下出血を起こしていたことが分かりました。高齢者が意識を喪失するようなけがをするというのは本当に怖いんですね。患者の命と救助リスクをどう判断するかも私たちの責務です。

「初めて登る山が富士山」の危険性

8月お盆を過ぎると寒くなり、低体温症患者が増えてきます。八合目ぐらいから吹雪いてくる日もあるんですね。

ある父子が九合目で土砂降りに遭って下りてきて、子どもが低体温症でガタガタ震えていました。お父さんもここで待機してくださいと言ったら、九合目に荷物を置いてきたので取りに行くと言う。無理だと止めても聞かず、3分後に「やっぱり無理でした」と戻ってきました。

登山経験のない人は、山で自分の体力がどれく

らい通用するのか分かりません。初めて登る山が富士山という人が実はとても多く、山のことを知らない人が「ぜひ富士山だけは登りたい」と言ってくる。天気が良くて条件がそろった日に登る分には、富士山はとても素晴らしい山ですが、悪条件が2つぐらい生じると、途端に危険な山になります。この父子は、子どもは元気になって歩いて下りると言ったのですが、お父さんのほうが戦意喪失になり、結局ブルドーザーで下ろしてもらいました。

外国人の低体温症も増えています。富士山に登る外国人の中には、日本で働いていて夏のお盆休みに母国へ帰省せずに富士登山するという人がいます。登山が趣味というわけではなく、日本に来ているんだから日本一高い山に登ろうというノリで、あり合わせの装備で来る。以前、山小屋で木材を勝手に燃やして暖を取る人もいましたが、高い山を登るための教育を受けてない人が多く、ときには命を危険にさらすこともあります。せっかく日本に働きに来て、休暇で富士山を登ったのに病気になるなんて不幸は経験してほしいと思いません。

持病が悪化した人のケースをご説明しましょう。40代男性で夜中の1時30分に意識喪失し、けいれんを起こしました。酸素吸入と点滴でいったん収まって「今までこんな経験は無かった」と言う。酸素を外したら再びけいれんを起こし、ブルドーザーで下ろしてもらいました。こういうときは救助隊の手だけでは足りないのです、山に入っているガイドさんなどいろいろな人に助けていただいて搬送します。この人は一命を取り留め、病院で改めて検査してもらってくださいと言ったところ、お金がかかるからと拒否されました。

同じように山でけいれんを起こした人がいて、この人にも再検査を勧めたところ、2つの病院で異常なしと言われ、3つ目の病院でてんかん発作だったと判明しました。ふだんの生活では発症しないような病気でも、富士山クラスの高山で強いストレスを受けると発症することがあるんですね。

下山困難者をサポートする

最近目に付くのは認知症の登山者。配偶者がど

うしても登らせてあげたいと無理をさせるケースです。高山で低酸素・脱水状態になるとというのは認知症患者の身体に大変なストレスとなります。軽い認知症だと高山ストレスで脳が効かなくなり、下山のとき、こわくて足が出せなくなってしまいます。登山道から離れてしまい、他の登山者に助けられ、「ここはどこですか」と聞いたら「歯医者さん」と答えた人もいました。電話番号も答えられないのでご本人の携帯電話を拝借し、ご自宅へ連絡したケースもありました。

富士山に来て認知症を発症したという人もいます。普段の生活では分からない程度に認知機能が低下していたんですね。ずっと名前も言わず黙り込んでいたのですが、ブドウ糖を注射し、身体を温めたら次第に正気を取り戻し、もともとおしゃべりだった人なのか、せきを切ったようにしゃべり始めました。富士登山のストレスというのは人格を変えてしまうほど大きいのです。

認知症の人は自分が低体温症になっているということが分かりません。本人が大丈夫だと言っても医療者なら低体温症だと判断できますが、介助者には分からない。それが怖いところです。

もう一つ特別な事例としては聾（ろう）のご夫婦。九合目の山小屋をファクスで予約していたのですが、七合目で具合が悪くなり、予約をキャンセルしたくてもできないので、懸命に九合目まで歩こうとして運ばれてきました。言語能力を獲得する以前に聾になってしまった人の場合、口の動きも理解できないのでコミュニケーションが難しく、筆談で対応しました。聾の人のサポートというのは想像以上に難しく、夜中に奥さんがトイレに行きたくて声を出してもご主人には聞こえないので、結局私が一晩中サポートすることになりました。今後増えると思われる障害者の登山支援も課題の一つとなるでしょう。

短パンで登る人、ひどい台風の日にも靴にスーパースターのレジ袋をかぶせただけで「僕は登山に慣れているから」と平気で言う人、山小屋に泊まるお金が無かったり、携帯電話のバッテリーが少ないのに無理に山頂まで行こうとする人、一日に一合ずつ登るペースで登頂は無理だと説得されても「絶対に登りたい」と聞かない大阪のおばちゃん・・・本当にいろいろな人がいます。

救助される人の多くは本当に医療ケアが必要と

いうよりも“下山困難者”なんですね。現状ではすべての下山困難者に対応するにはマンパワーが足りません。4人いっぺんにブルドーザーで下ろさなければならないような日もあります。

センターでは白衣を着た看護師さんに常駐してもらうことにしました。多くの登山者—富士山が初めて登る山—、という人は皆さん素直で、こちらの指導によく耳を傾けてくれます。とにかく登山者全員の無事の登頂と安全をかなえてあげようと、五合目、八合目、山頂と3カ所に指導者を置いて高山病の予防に努めています。白衣の人が常駐していると救助隊の男性が意欲を出すんですね（笑）。

センターでは診療以外、天候悪化等でシェルター代わりに避難してくる人への対応も求められます。山小屋は24時間営業ではありませんので、営業時間外にここへ駆け込んでくる人もいて、求められる機能は年々多様化しています。

徴収目的が明確な海外の入山料

センターのある標高3,250メートルは、世界ではそんなに高くありません。ヒマラヤには標高3,700メートルの地点に町があり、ヘリも飛ぶし、マーケットも営業しており、4,000メートルに立派なホテルもできました。

ヨーロッパではフランスで標高4,000メートル近い場所にも観光客がやってきます。3,700メートルくらいまでケーブルカーで登り、スキーで滑降したりクライミングを楽しみます。

ヨーロッパはアルプス全体が観光地化しています。ケーブルカーの運賃は7,000円ぐらいと高額ですが、全員がエアバッグを装備するなど安全意識の高い人がほとんどです。

アラスカのデナリ国立公園には6,000メートル級の山があり、入園料を一人1,000円ぐらい取っています。5年間で15億人ぐらい来ますので、それなりの収入になりますが、広い土地なので、どこにどういう整備が必要かきちんと目標を立て、試算をし、「あといくら足りない」と根拠を示し、入園料を設定しています。彼らは「入園料は訪れる人々に質の高い登山を楽しんでいただくためです」と明言します。徴収方法もさまざま

で、オンラインでの支払いや公園内のバスツアー参加費など入園者が気軽に払える場所をいくつか設けています。

登山者は2カ月前の申請が必要で、費用も一人4万円ぐらいかかります。登山の許可をもらったら、2時間のオリエンテーションを受け、トイレやごみや救護についてしっかりレクチャーを受けます。

お金を払って入るナショナルパークですから、何かあったら可能な範囲で救助してくれます。救助費用は無料です。ポータブルトイレは登山者自身で回収。放置したらペナルティーが与えられ、遭難して救助された人は、1年間入山許可はもらえません。

デナリのスタッフが素晴らしいと思うのは、自分たちの自然に誇りを持ち、大事にするためにはお金が必要で、登山者にもきちんとルールを守ってほしいと呼び掛けていること。富士山もそれに匹敵する価値のある山だと思うのです。

今は誰でも自由に入り、自覚なく登っています。「富士山を登ったら次はどこへ行くの。剣山？北アルプス？」と聞くと、多くの人が「屋久島」と答えます。ようするに世界遺産巡りなんですね。今後は登山の心構えを啓蒙する機会が必要です。その意味では、富士山は日本人に登山教育を始める適地ではないでしょうか。

世界遺産登録は目的ではなく、どこに向かっていくのか将来のビジョンが大切だと思います。どんなビジョンが描けるかを考えながら、今年も登山者の支援に努めたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

〈講師プロフィール〉

大城 和恵(おおしろ・かずえ)氏 八合目富士山衛生センター夏季常駐医師

1967年長野市生まれ。日本大学医学部卒業後、日本大学医学部第一内科学講座入局。2002年北海道大野記念病院勤務。10年英国レスター大学の山岳医療修士を取得し、日本人初の「国際山岳医」となる。11年北海道大野記念病院に復職、山岳外来を開設。循環器内科の勤務と並行して山岳医療の外来を行う。北海道警察山岳遭難救助アドバイザー医師に。15年より富士山富士宮口八合目「富士山衛生センター」に期間勤務。日本登山医学会理事。

パネルディスカッション

富士山の安全、世界遺産の保護、 そして観光のこれから

■パネリスト

渡井 一信氏 (富士宮市教育部文化課)

土屋 俊夫氏 (富士山観光交流ビューロー専務理事)

水本 俊輔氏 (富士山富士宮口ガイド組合長)

大城 和恵氏 (八合目富士山衛生センター夏季常駐医師)

■コーディネーター

杉山 武博 (静岡新聞社東部総局編集部長)

(杉山) 富士山の世界文化遺産登録から6年が経過し、この間、さまざまな課題も生じてきました。課題解決に向け、行政のみならず民間の力も大事になってきます。本日は行政と民間それぞれの視点からご提案をいただければと思います。

(渡井) 現在、富士宮市立郷土資料館の館長を務



渡井 一信氏

めています。世界遺産の登録まで数年間、担当部署に所属し、おかげさまで富士宮市はたくさんの構成資産を登録していただきました。現在は多くの構成資産の

ボランティアガイドを育成し、7年間で約250回近く講演活動もしてまいりました。今日は文化財保護の立場からお話させていただきます。

(水本) 今日は大阪から来ました。この時期に富士山に来る機会はあまりないので、真っ白な雪をかぶった美しい富士山を見られて感激です。関西の人間が富士山に直接かかわる機会はめったにありませんが、縁あって10年前からガイドをしています。世界遺産になる前となった後の富士山の移り変わりを見てきた立場でお話したいと思います。

(土屋) 私ども富士山観光交流ビューローでは「日

本一に会う」というポスターを作製しました。組織は富士・富士宮両市のエリアにまたがる観光交流団体で、会員数は293名。写真展などの観光PR、メディアや各種団体へのPRなど観光誘客、ビジネスマッチング等を行っています。富士山は正直、あって当たり前で育ち、生活の一部となっており、ふだんは意識することはほとんどありませんが、離れてみるとつつい富士山を探してしまいます。30代まではよく登山をしまして、北アルプスから右斜め方向に小さく富士山が見えると仲間と声を上げて感動したものです。名刺に富士山の写真を入れていますので、名刺を渡すと初対面の相手とも難しそうな相手とも話がスムーズに進む。富士山のパワーというのはすごいなあと改めて感じます。

(大城) 日本一高いというだけで、山好きな私と

しては魅力を感じます。登山者を守る環境も、日本人らしい人の良さといえますか、互いの好意で成り立っている部分もありますので、それが制度として定



大城 和恵氏

着するともっといいかなと思います。

観光地・富士山の課題

(杉山) 静岡新聞社は夏の時期、九合目山小屋に臨時支局を設け、記者を駐在させています。私自身も臨時支局に勤めた経験があります。2019年の富士山の登山者数は23万人、2017年にはおよそ28万人を数えました。富士宮口は土日祝日には1日1,300人登ります。映像でご覧になったことがあると思いますが、1,300人も来ると登山口が大渋滞します。登る山として見る山として観光の視点から、まずは土屋さん、富士山の魅力をお話いただけますか。

(土屋) 見てよし登ってよしということで、富士山百景、絶景スポット50選という2種類のパンフ



土屋 俊夫氏

レットを作りました。富士山百景は四季折々のビュースポットを100カ所選定し、絶景スポット50選は静岡県と山梨県で厳選した絶景スポットを50カ所紹介しています。

富士登山のシーズンは7月10日から9月10日までの短期間ですが、実は5月から11月まで五合目のトレッキングや、登山ではなく下山を楽しむ魅力もあります。新緑から紅葉の時期まで余裕を持って楽しんでいただけたらと思っています。

富士登山をする人のほとんどが登りと同じ口へ下山しますが、別の登山口に下りていただいて、最寄りの駅まで荷物をお届けするというサービスも行っています。行きは河口湖から登り、帰りは駿河湾方面に下りてきて田子の浦で美味しいシラスを食べていただき、登山道具は自宅まで送り、帰りに温泉でもう一泊くつろいでいただくというプランも可能です。そのような富士山の多彩な魅力を引き出す努力をしています。

(杉山) 外国人の受入れ状況はいかがでしょう。

(土屋) 訪日外国人の6割はリピーターだといわれます。一般的にリピーターが増えると東京・大

阪・京都といったメジャーな都市から地方へと流れていくとされ、またリピーターのほうがお金を多く落としてくれるともいわれます。その意味で富士山観光をもっともっとPRしていきたいと考えています。

新富士駅の観光案内所には毎日のようにさまざまな外国人が訪ねてきます。ほとんどが富士山についての問い合わせです。たとえば富士山に桜と五重塔の写真を見せて「ここに行くにはどうしたらいいか」と。富士吉田市にある新倉山浅間公園のことですが、新富士から富士吉田までの距離感が分からない人が多く、バスは本数が少なく、タクシーでもかなりかかる。その意味で、お客様目線で二次交通の利便性を高めなければと思います。とくに富士山の西側の二次交通対策が鍵を握ると思います。

保全と保護の課題

(杉山) 多くの観光客が来ると、自然環境や構成遺産の保護も重要になってきますね。

(渡井) 富士宮市には山体を除いて5つの構成資産があります。選ばれた当初は名誉に思いましたが、その後の活用という意味では大変な課題を背負ってしまったと実感しています。

世界遺産ともなると国の指定文化財にしなければなりません。富士宮市では浅間大社の本殿のみが国重文指定で、他は正直、村の鎮守の神レベル。地元には大きな戸惑いもあります。現在、構成資産の中では白糸の滝が最も整備が進んでいます。かつては滝壺の中に売店があったりしましたが、移転改修し、周辺の電線地中化も進め、来訪者は年間50万人に増加しました。山宮浅間神社についても案内所を設置し、村山浅間神社にトイレを設け、修験道の要である大日堂の改修を行いました。

2017年には世界遺産センターが完成し、ここを中心に来訪客が増え、2018年には100万人を数えました。白糸の滝も50万人を記録しましたが、他の3つの構成資産は年間1万～2万人程度で、もう少し認知度を高めたいところです。せっかく

世界遺産に登録されたのですから、構成資産の重要性を多くの人に理解していただきたいですね。

(杉山) あまり光が当たっていなかった構成資産に人が来るようになったのは嬉しいと思いますが、同時に保全の難しさもあるのでは。

(渡井) 登山客は30万人から20万人台に抑えられましたが、まだまだ許容範囲を超えているように思います。保護と活性化の両立を保ちつつ、先に進むことは可能だと考えていますが。

(杉山) 活性化という意味では山にどれだけの人が登ってくるか、その人々の安全をどう確保するか、最近の登山者の傾向やガイドとして感じておられることを水本さんにうかがいます。

(水本) 10年ほど前から若者の間で登山ブームが復活し、山ガールなどともてはやされるようになりましたが、やはり登山の技術がないがしろにされているのも事実です。

富士山は全国的に見ても登山初心者が圧倒的に



水本 俊輔氏

多く、短パンTシャツゴム草履といった軽装の若者や、年配者でも底がすり減った靴を平気で履いて来る人がいます。五合目でアドバイザーが指摘しても受け止めてもらえない

ことが多々あり、八合目の大城先生のところでお世話になるケースが減らない。将来的に見た場合、登山者も大事な資産ですから、その人が富士山に来てけがをして嫌な思いをして帰るとするのは我々にとっても不本意です。とにかく五合目で命に関わる教育をしっかりとする必要があります。

(杉山) 水本さんから見て富士山の魅力はどこにありますか。

(水本) 富士山は下から見てもあれだけ美しい山ですから、登れば絶景ですし、星空の美しさは日本一だと思います。僕は山小屋に泊まりながら写真も撮っているんですが、8月上旬の土日は静岡県から千葉県にかけて24～25カ所で花火大会が開催されます。それらを一齐に見るこ

とができるんですよ。音は聞こえませんが見渡す限り花火が見えるなんて下界では体験できません。ただ登って終わりではない楽しみがあると思っています。

樹木がある山は森林浴が楽しめますが、富士山にはそれができません。その代わりに富士山ならではの歴史があるということ、構成資産をご案内しながら理解してもらっています。

外国人の対応については、山小屋でビーガンや宗教上食べられないものがあるかどうかを書いてもらい、対応していますが、予約なしで来られた場合は困りますね。英語圏以外の方の場合はコミュニケーションに苦労しますので、そういったあたりを改善できればと思います。

(大城) 医療者の立場からみれば、現状、富士山を安全に登りなさいというのは厳しいのではないかと危惧しています。他の山に比べ、山小屋がたくさん整備されているせいか登山の意識が低く、本来なら3泊ぐらいで登る標高なのに1泊ツアーがほとんどです。その中で安全安全といっても限界があり、登山者に自覚が足りないからと責任を押しつけるのもどうかと思います。安全はお金をかけなければ手に入りませんので、登山者への教育と並行で整備をお願いしたいところです。

入山料の在り方

(杉山) 先ほどのご講演で目的を明確にした入山料の必要性についてお話がありました。現在、富士山保全協力金というものがありますが、静岡県側の2019年度の協力率は67.4%、約5,700万円でした。今後、入山料を強制徴収する方向で、早ければ22年度から始めるという報道もありました。観光、保全、安全と各分野で整備しなければならないことがたくさんある中、入山料の活用についてどのように考えていけばよいでしょうか。

(水本) 五合目で1,000円の協力金を徴収しています。払ってくれる人は毎年着実に増えており、納付が一目で分かる記念バッジをお渡ししています。ただやはり何のために払うのか分からない、使途不明の金は払いたくないという声もありま

す。僕らとしては登って下りてきて満足していただけなら払ってくださいとお願いしているわけですが、1,000円という金額は世界的に見て国立公園の中にある山として決して高くありません。もっと高くして、それでも払ってくれる質の高い登山者だけにしようという考え方もあります。現状、安かろう悪かろうという状態が少なからずある中、2年後に強制的に納める方向になるというのはよい傾向であり、入山料に見合った気持ちの良いフィルターの掛かった山にしていければと思います。

日本百名山の一つ、奈良の大台ヶ原は入山手続きが必要な山で、富士山と同じ1,000円を徴収しています。その代わりに、しっかりとしたレクチャーを受けてもらい、1,000円払うことでこの山の自然がどういうプロセスで保全されているか登山者にとって明確になっています。

(渡井) 私も強制徴収でいいと思います。富士登山の歴史をひもといてみると、とくに江戸時代、庶民は神聖な山に入るために相応の費用負担をしました。登山前、浅間大社の湧玉池で身を清めるためにもお金を払った。今のお金に換算すれば1,000円では到底収まりません。信仰の山としての文化を引き継ぐ意味でも、我々は登山者に理解していただく努力をしなければなりません。構成資産が多い富士宮市では何かあれば地元の氏子衆が負担せざるを得ない状況にありますので、入山料をうまく運用できればとも思っています。

(土屋) 入山料の目的は、基本的に富士山の環境保全や登山者の安全対策でいいと思います。これがなければ富士山観光も成り立ちません。保全や安全が十分担保されるのであれば残った分を周辺観光に活用できないかなという欲もあります。たとえば登山者向けのコミュニティーFMを開設し、山小屋にサテライトスタジオをつくって登山者に「もう少しで着きますよ、がんばれ、がんばれ」なんて呼び掛けられたらいいなと思っています。

(大城) 海外では入山料を払う山のほうが安心というのが実感です。日本人はお互い気を遣い合ってお金のことを言い出せずにいますが、海外ではきちんと徴収し、「責任を持ってこれだけのものを提供します」と明示します。日本にはそのよう

にきちんとした山が少ないので、富士山がモデルケースになればいいと思います。

富士山の未来に寄せて

(杉山) 最後にお一人ずつ富士山への提言をお願いします。

(土屋) JR東海の「そうだ京都、行こう」のCMに倣い、関西・西日本方面で「そ



杉山 武博

うだ富士山、行こう」というCMが流れないかなあとと思います。関西に行くと富士山への憧れがとても強く、「いつか必ず登りたい」「富士山が見えるところで余生を送りたい」という人に何人も会いますし、実際に施設パンフレットをお送りしたこともあります。

ただ、先ほども言いましたように、とくに西麓では新富士駅からの二次交通が脆弱です。背伸びする必要はありませんが、富士山エリアの個人、団体、行政それぞれの垣根を越えて連携していかなければと思います。

(水本) 楽しんでいただく反面、安全もしっかり担保し、将来的にはけがや事故がゼロの山にしていきたい。活火山ですからいつ何が起きるかわかりませんが、しっかりとした心構えで防災的なアプローチも行い、自分の孫やひ孫の世代にも登ってもらえる山にしていきたい。彼らに「自分のじいさんがここで仕事をしていたんだ」と誇りに思ってもらえる山にしたいですね。

(渡井) 富士宮市では2003年から富士山俳句賞という全国コンペを行っており、今まで5万句以上の作品が集まりました。応募者は小学生から100歳近い高齢者まで、中には海外からの応募もあります。それら作品を通し、富士山への日本人の思いの強さをしみじみ実感します。日常生活でいろいろあっても富士山を思うことで新たな勇気をもたらえるということがよく描かれている。世

界遺産となり、完全性と真実性が認められたので
すから、こういうものを構成に引き継ぐ重要性を
しっかり持ち続けたいと思います。

(大城) 富士山をこれからどうしていきたいのか、
世界遺産登録が目標に見え
てしまわないよう、より多
くの人に何が目標かを理解
してもらえ努力をしてほ
しいと思います。目標が明
確になれば、多くの人が協
力しやすくなるでしょう。
今後、登山者には障害者、
高齢者、外国人といいろ
んな立場の方が増えると思
われます。そういう人たち
にも安全に登れる山にする
など、どういう目的でどこ
にお金を掛けるのかを明確に

することで、それに伴う雇用が地元にも生まれま
す。富士山は世界をリーディングする山になっ
てほしいと思います。

(杉山) 今日はありがとうございました。



〈出演者プロフィール〉

渡井 一信(わたい・かずのぶ)氏
富士宮市教育部文化課社会教育指導員、
郷土資料館館長

1954年富士市生まれ。大学卒業後、学芸員として富士宮市に入庁。2007年に富士山が世界遺産暫定リストに登載されてから13年の富士山世界遺産登録まで、世界遺産登録推進担当の教育文化課長、富士山文化課長、富士山世界遺産課長として文化庁・静岡県とともに登録推進に携わる。現在は囑託として富士宮市教育部文化課社会教育指導員と郷土資料館館長を務める。構成資産や郷土史に関する執筆、講演は多数。

土屋 俊夫(つちや・としお)氏
富士山観光交流ビューロー専務理事

1955年生まれ。富士市入庁後、土木技術職として道路・河川行政に携わったのち総務・企画部門に転じ、総務部企画課長、産業経済部長、都市整備部長等を歴任する。2016年より現職。

水本 俊輔(みずもと・しゅんすけ)氏
富士山富士宮口ガイド組合長

1977年奈良県生まれ。2010年より富士山公認ガイドとして通算400回以上富士山を登頂。富士山のガイド実績は1万人を超え「富士山に最も多く登っている関西人」。夏以外は紀伊半島の世界遺産山域や全国の山を舞台に活動し、山岳関連のテレビや雑誌など多くメディアに出演。山岳写真家として受賞歴も多数あり、写真撮影のアドバイスから歴史・地学・宇宙を織り交ぜたガイドングで、大自然の中での特別な体験をプロデュースする。

杉山 武博(すぎやま・たけひろ)
静岡新聞社東部総局編集部長

1969年静岡県生まれ、93年静岡新聞社編集局に入社、蒲原支局、細江支局、社会部、東京支社編集部、政治部などの勤務を経て、ニュースセンター副本部長、2019年より現職。

サンフロント21懇話会

全体会

開催／2019年12月11日(水) 15:00～

会場／沼津リバーサイドホテル



2019年12月、サンフロント21懇話会2019年度全体会が開催され、今年度の活動報告と来年度方針案が示された。記念講演では政治外交評論家の武藤正敏氏に懸案の日韓関係の行方について文在寅(ムンジェイン)政権が抱える問題を整理しながら解説していただいた。終了後の懇親会では会員相互で一年の労をねぎらった。

主催者挨拶



静岡新聞社・静岡放送社長
大石 剛

皆さま、こんにちは。本日は年末のご多忙の中、サンフロント21懇話会2019年度全体会に多くの方々にご来場いただき、誠にありがとうございます。平成から令和の時代が変わった今年も早いもので師走を迎えております。この1年間の10大ニュースが新聞各紙をにぎわせる頃といいましょうか、今年も様々な出来事がありました。

世界中で異常気象が発生し、地球温暖化の影響が叫ばれております。日本にも静岡にも今年台風が上陸し、各地で甚大な被害が生じました。英国のEU離脱問題、米中の経済摩擦、イランの核問題、アジアでは香港の民主派デモが収まらず、北朝鮮の動向も目が離せません。身近な韓国との関係では徴用工

訴訟問題に始まり、日本による輸出規制、GSOMIA（ジーソミア、日韓軍事情報包括保護協定）をめぐる摩擦などが尾を引いております。GSOMIAは失効回避となりましたが、いまだに出口が見えないところと思っております。

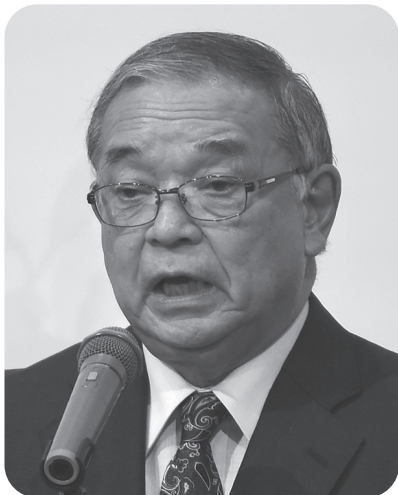
一方で盛り上がったニュースもありました。日本代表がONE TEAMとして史上初めてアイルランドやスコットランドを破ってベスト8に駒を進めたラグビーワールドカップ。袋井市のエコパスタジアムで開催されたアイルランド戦は、海外に「シズオカ・ショック」と報じられるほど歴史的な勝利となりました。

その熱が冷めないうちに2020年東京オリンピック・パラリンピックが7カ月後に迫っております。県内でも伊豆市や小山町などで自転車競技が繰り広げられます。ヨーロッパは自転車競技の人气がとて高く、海外から県東部や伊豆に多くの方がやってくると思われま。富士山や伊豆、東部の魅力を発信する絶好の機会になるのではないのでしょうか。懇話会としましても県東部や伊豆地域で五輪を盛り上げるとともに、終了後にレガシーとして何を残していくかを考え、地域振興につなげていきたいと考えております。

さて本日の記念講演にお招きしましたのは、政治外交評論家で元在韓国大使の武藤正敏さんです。武藤さんは外交官として何度も韓国に赴任されており、外務省の北東アジア課長を務めるなど朝鮮半島情勢にはとても詳しい方とうかがっております。本日は「文政権で韓国、日韓関係はどうなるのか」と題し、現在の日韓関係について歯に衣着せぬ興味深いお話をうかがえるものと期待しております。

最後になりましたが今年懇話会は25年となります。四半世紀にわたって活動を続けてこられたのも、ひとえに皆さまのご支援ご協力の賜物と思っております。心より感謝を申し上げ、主催者の挨拶とさせていただきます。

懇話会代表挨拶



サンフロント21 懇話会運営委員長
(伊東法律事務所所長)

伊東 哲夫 氏

2019年度のこれまでの活動についてご報告させていただきます。

5月24日に三島プラザホテルにおいて総会を開催し、作家で元外務省主任分析官の佐藤優さんに「最近の北方領土交渉」と題してお話しいただきました。

9月5日には伊豆地区分科会を中伊豆ワイナリーで開催し「伊豆の観光と人材」という演題で五輪金メダリスト古賀稔彦さんにご講演いただきました。その後は企業経営研究所常務理事の中山勝さんをコーディネーターに、熱海観光建設部次長の立見修司さん、高崎商科大学特任教授の熊倉浩靖さん、NPO サプライズ代表で静岡大学地域創造学環客員教授の飯倉清太さんによるパネル討論「伊豆の地域振興と人口減少時代の課題」

をご議論いただきました。

10月18日にはクレマチスの丘・ヴァンジ彫刻庭園美術館におきまして例年開催する東部地域分科会に代わるものとして静岡国際ビジネス交流会 in 東部を開催。県知事はじめイタリア、ロシアの大使館員をお招きし、さらにラグビーワールドカップの準々決勝直前というタイミングで日本ラグビーのレジェンドや女子ラグビーチームアザレア・セブンの現役選手も登壇し、ラグビーの魅力について語っていただきました。この交流会は県東部と隣県神奈川県西部の交流が目的であり、ある程度達成できたと思っております。

今日の全体会の前には運営委員会を開催し、2020年度の活動案を討議いたしました。懇話会の活動はもともと4つの項目を掲げており、中長期的な目標として大きく変わることはありません。ただし4つの中でも、2020年度に新たに加えたほうがいいという部分をお示してあります。

まずファルマバレー、アグリオープンイノベーションなどのプロジェクト推進において、2019年に新設された「水産・食品・創薬」のマリンバイオテクノロジーを核としたイノベーションによる地域振興や産業の創出を目指す「M aOI」プロジェクトへの支援。

次いで観光産業での新たな展開として2020年のオリンピック・パラリンピックでは富士山麓と伊豆地区で自転車競技が開催されるため、地域創生の中で自転車というものを核に支援していくというもの。さらに動物愛護の活動支援では「愛玩動物飼育管理士」資格の養成と教育機関設立についての支援です。

2019年度の行事もまだ残っておりますが、2020年も引き続きサンフロント21懇話会の活動にご支援ご協力をお願い申し上げます。

記念講演

文政権で 韓国、日韓関係は どうなるのか



講師

政治外交評論家（元駐韓国大使）

武藤正敏氏

文政権の特徴と弊害

今の韓国という国を見てみると、文在寅（ムンジェイン）政権は支持層を狙った政策に集中し、保守層と敵対し、中間層も離脱。北朝鮮の嫌がらせにも融和姿勢には変化なく、反日政策を取り続けています。政権支持率は一年前と変わらず49%前後で、いまだ革新系が世論の支持を得ています。

そもそも文政権とは、朴槿恵（パククネ）前大統領を弾劾したローソク革命で“朴槿恵憎し”で一致団結した左翼思想の政治闘争家が誕生させた政権。中枢にいるのはいわば政治の素人集団です。

内政の最重要課題は積弊の精算と左翼政権の継続。経済面では格差の是正。外交面では北朝鮮の非核化と平和共存、そして将来の南北統一。これら政策は海外の信頼を失墜させ、国内を対立させる様々な弊害を生んでいます。

内政における積弊の精算では過去の保守政権の業績を否定し、親日家の排除に徹しています。“漢江の奇跡”とうたわれた1960年代朴正熙政権下での経済成長は、日本の明治維新を参考にしたといわれていますが、今の教科書では漢江の奇跡そ

のものが削除され、戦前の日本統治時代に協力者とされた親日家はことごとく排除されました。

政権長期化のためには、まず行政府の局長以上を入れ替え、行政改革の名の下で権力機構を掌握。唯一抑えきれなかった検察組織をなんとかしようと曹国氏を法相に送り込みました。言論統制では幹部人事に口を挟み、労組を通じた言論支配を進め、中央日報や朝鮮日報といった全国紙が政権に忖度するようになりました。そして思想改造として北朝鮮を敵国から除外させたのです。

タマネギ男こと曹国氏は娘の不正入学と奨学金問題、妻の私文書偽装、息子の兵役逃れ、不透明な投資ファンドと財産隠しなど、一家の疑惑が次々と明らかになり、辞任に追い込まれたわけですが、直前には曹国支持派と反対派で激しいデモ闘争が展開しました。9月28日の支持派集会は主催者発表で200万人のところ実際は10万人。10月3日の反対派集会は30万～50万人集まったようです。

文政権の強引な政治手法は地方選挙にも及んでいます。蔚山市長選挙戦では現職市長の不正を暴いて人権弁護士を当選させたのですが、その不正は裁判で無罪となり、監査が入ったところ、11月末から監査は中断状態。青瓦台が関与している

ものと思われます。

安保をおろそかにしているとみられる点も文政権の弊害でしょう。北朝鮮の非核化によって平和共存が実現し、同一民族意識が高まると唱える文政権ですが、38度線に近いソウルには2000万人が住んでおり、核兵器がなくても脅威は変わりません。2018年9月の南北会議で38度線付近の偵察飛行の中断と軍事演習の中止が合意されたものの、GSOMIA破棄はアメリカからの強い圧力によって撤回されました。GSOMIAに関しては「慎重に見極める」というような言い方にしておけばよかったのですが、「破棄する」一辺倒で来て、ギリギリになっていきなり「破棄撤回」ですから、支持者の反発はもちろんのこと、北朝鮮の制裁破りを助長させることにもなるでしょう。

経済では危機的といえる状況です。韓国はGDPの40%を輸出が占める国で、2019年のGDP成長率は1%台、12カ月連続で輸出減。1～8月期の設備投資額は前年比11.8%減、9月は消費者物価・生産者物価ともマイナスでウォン安が続いています。失業率は数字だけは改善しているようにみえますが、30～40代の多くは非正規雇用で、60代で町の清掃の仕事しかないという声も聞かれるなど失業問題も深刻化しています。この要因は主な輸出先である中国経済の停滞、日本との対立、所得主導経済成長の弊害とされています。2

年間で最低賃金を29%引き上げた結果、中小企業で雇用減らしが生じたのです。そこで最低賃金の引き上げを抑制し、支持者を失望させることになりました。

日韓関係に展望はあるか

日韓関係について見てみましょう。韓国人の対日イメージは中長期的に見れば改善傾向にあります。1960～70年代は韓国内で日本の話ができないという時代でした。80年代は日本人とわかると追い返され、90年代も日本人は街中を堂々と歩けないという時代が続きましたが、2000年以降徐々に改善しています。日韓関係が最も良好になったとされる金大中政権時代は日本文化が開放されて民間交流が活発になり、経済面でも協力有望分野が広がっています。

しかしながら現政権下での元徴用工問題、慰安婦問題の合意反故、不買運動や交流中止など大統領府扇動で民間を巻き込んだ反日行動によって、韓国国内では「親日と言われたいよう気をつけよう」という空気がまん延。一方の日本国内でも対韓イメージが悪化をたどるなど深刻な状況に陥っています。

元徴用工問題は当初、韓国では日韓関係への影響を過小評価していたようですが、日本側は妥協の余地なしという姿勢を貫いています。その後表面化した輸出管理問題で日本は韓国をホワイト国から除外。156件の戦略物資の不正輸出が安保上の不適切事案であることから見直したもので、韓国側が安保を軽視したともいえる結果ですが、韓国はこれを元徴用工



問題への報復だと反発。日本製品不買運動と日本への渡航自粛へと事態を悪化させました。

このような誤った経済政策のもとでは、日本から韓国への新規投資は難しいのですが、韓国ではニッチな中小企業の下で有能な人材が育っており、今すぐの投資は難しくとも、人材活用という面で中長期的に取り組む、新たな日韓経済交流の基礎を作ることは有望でしょう。日韓関係は浮き沈みが特徴ながら、関係改善は機会が訪れたとき、一気に進捗します。当面は民間の文化・経済交流の機会を生かしてほしいと思います。

日本はなんとしてでも韓国のレッドチーム入りを阻止しなければなりません。非核化の意思のない北朝鮮への過度な融和姿勢をけん制し、日米間の連携を重視する姿勢を貫くことが肝要です

が、文政権はG S O M I A 撤回は破棄したものの、依然として関係改善は困難な状況です。新しい日韓関係構築のためにも、客観性や感情抑制を以て毅然とした態度で取り組んでもらいたいと思っています。

〈講師プロフィール〉

武藤 正敏(むとう・まさとし)氏 政治外交評論家、元駐韓国大使

東京都出身。1972年横浜国大卒業後、外務省に入省。韓国大使を含め何度も韓国に勤務、外務省の北東アジア課長も務めるなど朝鮮半島情勢に詳しい。著書は「韓国人に生まれなくてよかった」、「文在寅という災厄」など多数。新聞メディアへも多く寄稿。

サンフロント21懇話会の会員情報

■新たに入会された方

- ◇ 公益社団法人 静岡県観光協会 参 事 望月 宏明
- ◇ 土井製菓(株) 代表取締役 土井 隆司

■会員の変更

- ◇(株)JTB 静岡支店 副支店長 萩原 仁 → 営業担当部長 川島 誠司
- ◇(株)ホテル銀水荘 代表取締役社長 加藤 昌利 → 代表取締役社長 加藤 晃太
- ◇(株)大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店
店 長 池澤 憲司 → 店 長 小室 孝裕
- ◇(株)静岡新聞社 東部総局次長 石部 哲也 → 東部総局次長 川内 十郎
- ◇(株)静岡放送 報道制作局長 石埜 雅己 → 報道制作局長 森 政勝
- ◇ 静岡県熱海土木事務所 所 長 岩崎 泰克 → 所 長 尾崎 元久
- ◇ 静岡県下田土木事務所 所 長 森本 哲生 → 所 長 曾根 裕介
- ◇ 静岡県総合健康センター 技 監 植松 和子 → 技 監 神田 洋美
- ◇ 静岡県田子の浦港管理事務所
所 長 中谷 孔右 → 所 長 加畑 勝之
- ◇ 静岡県東部地域局 局 長 望月 宏明 → 局 長 山本 東
- ◇ 静岡県富士財務事務所 所 長 中島 敏雄 → 所 長 杉村 行弘
- ◇ 静岡県富士農林事務所 所 長 長谷川剛司 → 所 長 杉山 厚吉
- ◇(独)国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校
校 長 藤本 晶 → 校 長 中村 聡
- ◇(株)静岡伊勢丹 代表取締役社長 田中 清 → 代表取締役社長 嶋田 正男



ラジオマイトーク

【令和2年1月19日放送】

オンリーワン経営目指す

い たみ ひで ゆき
伊丹 秀之氏

マルヨ・松韻
代表取締役社長

▽モットー	努力に勝る武器はない
▽趣味	絵画、俳句、ゴルフ、造園、歌
▽出身地	三島市

〈お話のポイント〉

♠ 仕出し弁当をはじめ、病院・老人ホーム・学校等の給食委託業務、それに和風レストラン松韻を経営しています。

♥ 地元信金に勤め、10年働いて脱サラで餃子屋を始めました。銅の鍋で餃子を焼いたら黒くならずキツネ色に仕上がりに、人気を呼び売れに売れまくりました。その後、仕出し弁当を始めました。衛生管理を徹底的に重視し、8年前にHACCPの認証を取得した工場調理しています。

◆ 皆と同じことをしないオンリーワン経営が

モットーです。和風レストランは素人ですので、山形県の農家と契約栽培した米を使用直前に脱穀し、箱根西麓の150m地下からくみ上げた水を使って炊き上げています。日本一のごはんと自信を持ってすすめています。松韻では沼津港から毎日仕入れる新鮮な魚を提供しています。それらの魚をショーウインドーに飾ってお客様に見てもらっています。

♣ 造園、絵画が趣味です。せせらぎ亭の庭は、私自身がトラックで石と土を運びながら作りました。



ラジオマイトーク

【令和2年3月15日放送】

マグネシウムを加工

は ぎり かつ とし
羽切 勝利氏

(株)NNH(エヌエヌエイチ)
代表取締役

▽モットー	いつも笑顔で元気よく
▽趣味	サッカー観戦、 家族旅行(ショッピング)、
▽出身地	沼津市

〈お話のポイント〉

♠ マグネシウムを加工してダイキャストを作っています。国内には同業者が10社はないと思います。ほとんどのカメラメーカー、医療関係では富士フィルム、テルモ、エアツールではマキタに納めています。社名は以前勤めていた会社と、会社を立ち上げた合併会社の頭文字を取りました。

♥ モノづくりの事が分かっていなかったものが社長になって、なかなか仕事が取れない時にライバル会社から仕事をいただいたことがターニングポイントになりました。いろいろ

な人に助けていただき、人に感謝することを忘れません。

◆ 沼津で生まれ育ちました。昔に比べ沼津の街は人が少なく、元気がなくなりました。自分の会社を起業したことで、子供たちが沼津から出ていなくて沼津に残ってもっともっと沼津を元気にしようという気持ちになってもらうように、微力ながら沼津にお返しできました。

♣ 中学時代にサッカーをしていたので、J3のアスルクラロ沼津ができた時から応援しています。